

指導の形態	自立活動「書くこと」 ～集中して書くための指導～	障がい種	注意欠陥多動性障がい (ADHD)
-------	-----------------------------	------	----------------------

### 授業の概要やよさ

- ・指先の巧緻性を高める工夫やゲームの要素を取り入れながら、正しい文字の書き方を指導する。
- ・児童の性格を的確にとらえた言葉かけにより、学習意欲を促す。

### 児童生徒の様子

- 小学校1年男子
- ・授業中45分間着席できているが、集中力が続かず手遊びをしていることが多い。
- ・指先の巧緻性が低く、力を入れて文字を書くことが苦手。
- ・鉛筆の持ち方が独特。(上に4本がけ)
- ・止め、はね、はらいの違いを書くことはできる。
- ・小指も鉛筆の上に置いて書いている。「この持ちの方が書きやすいよ」と正しいやり方を教えるが、力が入りにくく、線がゆがんでしまう。

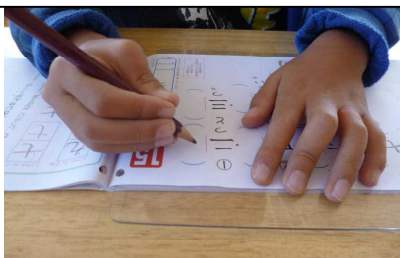
### 目標

- 鉛筆の正しい持ち方がわかる。
- 文字のとめ、はね、はらいに気づくことができる。
- 指先の巧緻性を高め、文字が書きやすくなるようにする。

### 支援のポイント

#### ○鉛筆の持ち方

- ①親指は横、人差し指は上、中指は下にくる。
- ②小指と手のほっぺで紙を押える。(本人がイメージしやすいような言葉のかけ方を工夫する)



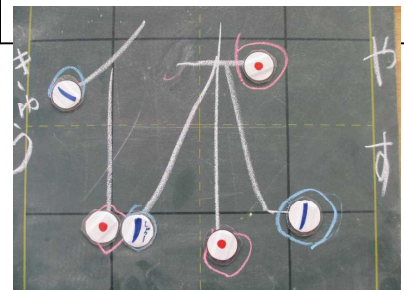
#### ○指先の巧緻性

- 親指、人差し指、中指を使って、粘土やねり消しをつまむ、丸める、こねる。  
(ねり消しの量を少なくすると親指と人差し指だけの動きになってしまうので量を調整するといい)



#### ○新出漢字の学習

- ゲーム感覚でとめ、はね、はらいに着目させる。  
「今日は、うん、しゅうっ、ぴんのどれが一番多く出てくるかな?当ててみよう」



※集中力が続かなくなってきたら、時間を意識させる言葉かけが効果的。  
「○分までがんばってみよう」「○分間がんばれているね」